

ISSN 0910-2396

# 野鳥友刊

—北海道—

第 96 号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 平成 6 年 6 月 21 日



キマユツメナガセキレイ 1993. 7. 5 サロベツ原野 撮影者 富田 寿一



# もくじ

私の探鳥地 (26)..... 2  
 2度目のコウミスズメ..... 泉 勝 統 ..... 3  
 記録は語りつづける...記録写真を主題として..... 隅 田 重 義 ..... 4  
 探鳥会報告..... 6  
 総会報告..... 8  
 ワープロ・パソコンで全国バードウォッチング..... 久 田 伸 一 ..... 10  
 探鳥会報告(つづき)..... 12  
 鳥 民 便 り..... 14  
 探鳥会案内..... 14

## 私の探鳥地 (26)

### 新川河口

野坂英三

新川河口は小さいながら草原と沼があり、ハマナスやハマヒルガオ等が咲き、海水浴シーズン以外は静かな場所です。

壊れた橋の近くは、アカモズ等が見られ、東側の草原では、ノビタキ、ノゴマ等がさえずっています。

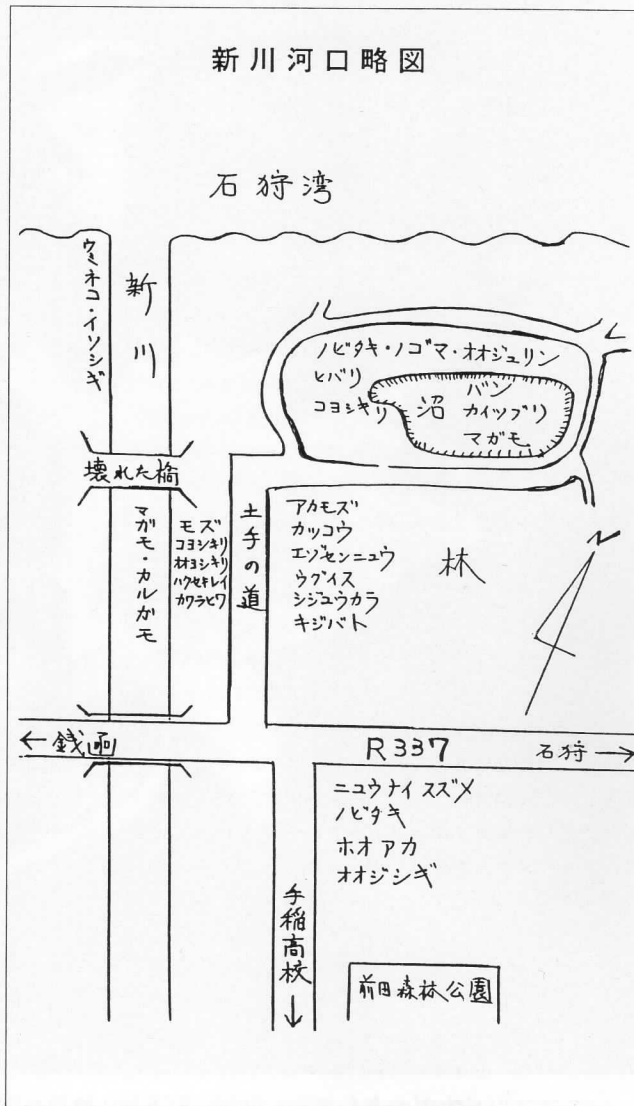
草原の中には沼があり、ここではバン、カイツブリ、マガモ等が繁殖しています。この沼は南側が小高くなっており、ここからは全体を見渡す事が出来ます。

R337から海岸までの土手の道から東側の林からはカッコウ、エゾセンニュウ、ウグイス等の声が聞かれます。西側の河川敷では、コヨシキリ、オオヨシキリ、モズ等が見られます。R337の所では、ニューナイスズメやホオアカ等が見られます。

季節としては6月位が良いでしょう。尚、新川河口に行く途中には前田森林公園や西発電所の東奥の空き地等の探鳥地がけっこう有ります。

〒001 札幌市北区北32条西3丁目2-5

芳明マンション



## 2度目のコウミスズメ

泉 勝 統

前日より、大陸から強い低気圧が本道に進んできており、終日雪が降っていた。夜中には遂に風雪も強まり、あまつさえ上空には零下43℃の寒気団が、すっぱり覆いかぶさる悪天候になった。降雪つづきの94年2月2日の朝がようやく明けました。札幌の昨夜来の積雪量は23cmとなり、さらに風雪は続いていました。

午後の1時も過ぎた頃になって、ようやく雲の切れ間から、眩しいばかりの陽光がさし始めて来た。

雪の降り止むのを、今かいまかと待っていた近隣の人々が、昨夜からの数度の除雪をお互いにボヤキ乍ら、新雪の排雪に余念なく働きはじめたのです。

「泉さん、脚が折れたのかヨチヨチ歩いている小さい鳥が、そこにいますよ」と隣家の大西夫人が知らせてくれた。……「どんな大きさ。どんな色ですか」。「上が黒くて、下が白い雀くらいの大きさ。それぞれそこに!!」

私の質問は、まさに愚問であった。目の前の藤田宅と車庫間の新雪面を懸命に昇ろうと跳ねている小鳥を見たのです。「コウミスズメだ」……1度も出会いのない



コウミスズメ 藤田 士

鳥だったけれど瞬間そう考えたのです。鳥を驚かさないうちにソーッと近づき、雪壁の方に追い詰めるような形で接近し、雪庇の際で右往左住している、この小さな鳥を捕えることができました。確かに水掻があり間違いもなくコウミスズメでした。日頃から、野鳥保護用に用意してある小型の(大型も1個)ダンボール箱……中によく揉んである新聞紙をクッション代りに入れる……に入れようとすると掌の中で、しきりに逃れようとして動く。箱に入れて暗く覆い、温い場所の静かなところに置く。小鳥の動きが収まるまで待つだけである。その間に隣家

の藤田さんに、写真撮影と車で搬送をお願いする。何しろ私は車どころか自転車にも乗れないときているから、隣人の助けをもらうしかないのです。石狩新港が良いと思うが、このような悪天候で道路事情も最悪であろう。矢張り茨戸川しかないではないか? 茨戸川へはワカサギも入っているし、大小の魚も多いところ。……あそこしかあるまいと決断したのです。写真もとり終えて茨戸川に向った。北に向うにつれて空は風雪も強く、心配になってきた。川岸で一寸躊躇ったが元気なうちに放鳥するのが一番良い事だろう。風が弱まった時を見計らって放すことにした。川岸の雪庇が出ているので、誤って河水に墜ちるので様にならない。日頃歩き慣れているのでこの辺が良かろうと、雪面に放して見た。然し彼は飛ばず周囲を歩き廻るだけで私も少々焦った。その時突風が



飛びたったコウミスズメ

西から吹いた。その風に逆うように空に翔び上っていった。野生の鳥の強さを知らされる思いだった。創成・伏籠・発寒3河川の合流点上空を廻って、茨戸川下流方向に着水したようだった。ここまでは未熟な私にできる精一ばいのことである。その夜は幸い風も弱まって来た。

野生の鳥は強い。きっと生きのびて「自分の住む世界に戻っていったであろう……と私自身に語り聴かせた。

コウミスズメとの出会いは2度目であるが、1度目は姿も見ることなく弊死させている。5年程前の春の夕方のことでした。会社勤めの長男から電話があり「同僚が麻生の路上をヨタヨタ歩いている雀程の大きさの鳥を捕えて来た」というのである。支庁自然保護係や円山動物園に問合せたところ、来襲した暴風雪に巻きこまれ、市内に10数羽墜ち、そちらで海か川に放して欲しい」ということだった。仕方なく、息子にはダンボール箱に保温し、明朝に新川へ放すしかないと答えておいた。翌朝の

電話で死んでいた……と知らされた。それ以来、姿も見た事のない、この水鳥の事が気になって仕方がなかった。だからここ4年程前から、私の鳥好きを知ってか近所の人々から野鳥の弊死体や、怪我をした野鳥が持ちこまれるようになりました。傷病鳥の手当や処置を学んだ事もない私にとっては戸惑う事ばかりでした。

ところが、偶然カワアイサを救う羽目になった時に、円山動物園の向井猛先生に、色々ご指導を受けたのが切掛となり、私なりに勉強してみました。1991年頃からの取り扱った主たる例を挙げてみると次表のようになります。

暴風雪：コウミスズメ……と直感的に結びつき、早期の処理ができたのではなかったでしょうか。

4年程前から、私が鳥好きであるを知った近隣の方がいろいろな鳥弊死体を届けてくれるようになりました。帯広畜大藤巻先生が、骨格標本作制のため野鳥の屍体を集められている事を知ったのは、そのずっと後のことでした。従って私は、鳥の死体の埋葬屋でしかありませんでした。傷病鳥の取扱いについて学んだ事ありませんし、勿論専門家ではありません。然し猫が銜<sup>くは</sup>えて来たカワラヒワ(幼)を持ちこまれた時に、死なせたくないという思いで、翼・肢の異常はないか。餌はどんなものがよいのか……と勉強し始めました。弊死体を含め主要なものを以下に示します。

91年2月 ヒレンジャク 体育館窓ガラス下弊死

91年11月 キクイタダキ(♀) 同上 弊死  
 92年8月 カワラヒワ (猫に捕えられる) 放鳥  
 92年2月 ギンザンマシコ(♂)東茨戸玄関 弊死  
 92年12月 カワアイサ(♀) 茨戸川放 放鳥  
 93年9月 センダイムシクイ(猫に追われ家の中に) 放鳥

94年2月 コウミスズメ (地上に落下) 放鳥  
 その他、ノビタキ、モズなども翼・肢に小さい傷があったものは、私の家の小庭の齢30余年のイチイ(オソコ)の枝に入れておいたら、飛んで行くのを確認することができました。元々傷を負っていないものは、私の家のこの場所に放してやります。92年12月カワアイサ放鳥の際円山動物園向井先生に教示戴いたことが、今日大変役立っていることを更めて知り感謝して、この小文を終ります。

訂正とお詫び

野鳥だより95号のP8「生振・茨戸川流域の野鳥(2)の文中、執筆者泉の錯誤(どうも年号音痴)で3ヶ所誤りがありますので、お詫び申し上げます。訂正方よろしくお願い致します。

クマゲラ 5行目 (誤)94年～(正)93年  
 6行目 同上  
 7行目 (誤)95年～(正)94年  
 オオホシハジロ  
 1行目 (誤)94年～(正)88年  
 〒002 札幌市北区篠路2条3丁目11-1

記録は語りつづける

……………記録写真を主題として

隅田重義

Kさん元気ですか。私も元気で野鳥観察調査に励んでいます。もう95才になりました。今まで、いろいろな野鳥や動物の保護観察のため……鳥獣保護員や鳥獣保護連盟専門委員などをやって来ました当時の記録を纏めようと思っています。特にコクガン・クマゲラを20年から25年間も観察した結果をまとめ中ですので、出来上ったらご覧いただきます。どうぞお身大切に。一度函館にも出かけて来てください。

クマゲラ等の原稿送ります。どうぞよろしく。

コブハクチョウと一青年の出会い

もともとコブハクチョウの北海道での繁殖地は、大沼であった。今から10数年前に、或る会社から寄贈されて放鳥されたものである。2羽の番いが……生息環境の良さもあり、数年のうちに北海道のあちこちに殖えだした。

元もと体も大柄であり、鼻に独特のコブが目立つハクチョウであったから、本道の色々なところで話題となった。ある時、道南の道新記者から電話があり、「仲間割れなどしないのか」との問合せであった。……「すぐに

仲良しになりますよ。心配はいりません」と返事しておいた。その後になっても、この種の心配は余りないようだ。

ある年のこと……だいぶ古い事で……大沼に観察調査に出掛けた時のことである。ハクチョウ・カモ類の北帰行も近い頃であった。思いもかけず「驚き」の場面に接したのである。小沼の水も溶け水鳥たちが休息している中に、沖合にいた3羽・5羽と散らばっていたコブハクチョウが、岸にいた1人の青年をめがけて集まり始めて来たのである。全く餌を与えている様子もない。近寄って来て陸みあう姿に……私はびっくりしたのである。

鳥を驚かしてはならないと思い、すこし離れて観察していた。とにかく、青年と鳥とが話をしているのである。青年の語る言葉に、コブハクチョウが、やさしくうなずいているその姿に……感動したのである。長く鳥獣保護員をやっている間に、このような場面に接したのは、全く始めてのことだった。私はつくづく考えさせられた。鳥とこのように……会話(?)ができたならと思ったもの

である。コブハクチョウは、やがて岸を離れていった。私は、この青年に近寄り話を聴いてみて、尚びっくりした。『しばらくのお別れだな。また来年に会おうよ』という、水鳥はうなづくのだという。

ハクチョウが、歌や詩の題材になるのは、こんな情景と心境からなのだろうかと思った。またの機会に、こんな風物詩に出会えれば、と楽しく思った。

美わしい親子3羽のハクチョウの姿を見ても……親が幼鳥をかばい、そして何を語っているのか……愛情に満ちた姿を見ながら、大沼小沼での観察調査に限りない楽しさを覚えたものである。



(1) コブハクチョウと青年

渡り鳥の調査……渡りの季節になると大沼に羽を休める水鳥は、数万羽という大群になり本当に驚く。北帰行の途中で、4～5日程滞在する。一群が去ると、つづいてまた飛来する。このような情況が4～5回繰返されて北帰行は終る。最近もガンカモの北帰行について質問される事が多い。私は「渡り鳥健在なり」と思う1人である。然し、この時期に誰ひとり観察・調査に訪れる人の姿は見えない。『定点観察』の重要性は、ここにあると思うのである。最近になって道南の位置・風土などから見て、渡り鳥にとって重要な地域であり、各方面からも指摘されつつある。各界の人々の意見を聴きたいものである。

函館のクマゲラ……20年前にトド松林で発見。

当時ダム工事で1日中物凄い騒音……トド松林が揺れ動いているかと思われる程の悪条件の場所であった。どうしてこんな所に営巣しているのか……と不思議に思ったものである。それにも拘らず20年間のあいだ1度も休むことなく「子育て」をしたのである。山間函谷に棲むとのみ思っていたが、想像に反する事実を見せつけられたのである。結果から言えば、20年間に24羽の巣立ちがみられた。年によって最高3羽で1羽の時もあった。時には蛇に襲れたり、台風で風倒木となったりすることもあったが、多くのヒナは無事育っていった。クマゲラ研

究者で有名な有沢浩さんが来函された際に、観察調査され驚いていた。50年程たつトド松林（道有林）で、やや斜面になっており木と木の間隔・隠れ場所・通風・水朽木…等、クマゲラ夫婦の営巣に好適な場所であったのかも知れない。人々にとっては、一見大変荒れた工事現場と思われるが、彼等の生息にとっては反って良いのかも知れない。余計な人間や、強い動物が近寄らないからではないか……などと観察同行の友人と話したものである。写真(3)は、クマゲラが大木の樹皮・幹をツツキ餌の昆虫(幼)を採餌するために木の根元にできた堆積物である。その量の多いのに驚く。森に生きるクマゲラにとって、冬越の餌の確保は重要だ。雪深い頃から巣穴造りに励みは始める。1例では8ヶの半端な巣穴を見つけた事もある。

大体のパターンは 4月中旬……巣穴掘り  
5月上旬……抱卵 5月中旬……孵化  
6月中旬……巣立ち……と毎年変りはない。



(2) クマゲラの採餌した跡



(3) 根元にできた堆積物

今年もこの大樹を巣穴に選べば、物凄い巣穴掘りが始まるだろう。仕上げは小さい木屑・2000～3000位で、木の周囲は木屑だらけになる。この時に、他の侵入者があると中断することもあるという。

最も大切なことは、抱卵中の時であろう。まだか、まだかと調査を続けると、感受性の強いクマゲラの親は、危険と思ってか巣を放棄することがある。従って大切な事は、君だけに……と教えたことが、次から次と知れ渡り……秘密が消え……所謂写真の材料となり、雛を弊死させることになる。敵に慎まねばならないことだ。

このクマゲラ夫婦の営巣が20有余年、誰にも気付かれずに来たのは、調査回数を減らすことと、調査に細心の注意をはらったからである。この事を厳守したので、1度失敗はなく、雛は無事に育った。私と友人(故人)が8ミリ撮影で営巣の様子・採餌・供餌・そして餌を具体的に調べ鳴声も録音した。今後この貴重な資料をどう活用してもらおうかが、これからの課題と思う。

要するに、自分の足でかせぎ発見し、調査した結果を記録する事が大切で、単に写真撮影の材料に終らせてはならないのだ。愛鳥というのは……鳥の方から言う言葉ではなかろうか……と私は考えている。

〒040 函館市八幡町13-16



(4) クマゲラの営巣木

野鳥会のみなさん、ありがとうございました。

〒064 札幌市中央区北1条西28丁目5-3

〔記録された鳥〕コゲラ、アカゲラ、ヒヨドリ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウガラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、ウソ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス、ドバト以上13種

〔参加者〕武沢和義・佐知子、山田甚一、戸津高保、南智子・麻衣子、みなみりょう、平尾 恒、中屋惇子、高山武夫、山田玲子、あきたやよこ、野坂英三、道場優、中井キヨ、長谷川房子、国島達夫、小島マサヨ、服部光博、山田良造、矢野玲子 以上21名

〔担当幹事〕武沢和義、矢野玲子



円山公園下の  
探鳥会に参加して

H 6 . 3 . 6

南 智 子

初めての探鳥会参加でした。何日も前から楽しみで、この日のために、双眼鏡も購入しました。子供も一緒と思っていたので、天候が気になっていました。6日の朝は、雪が降っていたので、中止の予定でしたが、集合時間近くになって青空が広がり始め、遊びに来ていた私の母と子供2人、あわてて用意をして出かけました。

観察が始まり、鳥の音がする方を見ても、どこにいるのかさっぱり、でも流石に、野鳥会の方は指をさして「何々の鳥がいますよ」と教えてくれます。いつも子供を連れて遊びに来ている円山公園で、これだけの鳥の種類がいるのはびっくりしました。特に、目の前で見ることが出来たアカゲラが、木の皮の間の虫をつまんでいる様子をゆっくり見られた事です。それと毎日見ているカラスにも、ハシブトガラス、ハシボソカラスと種類があることを知りました。子供の頃は自然が身近にあり、カッコウやウグイスの音が家の中にも聞こえていました。昨年からはキャンプも始めたので、海や山へ行く機会もふえたので、もっと自然の中に足を運んで、パードウォッチングを楽しみたいと思います。

#### ウトナイ湖にて水鳥たちとの出会い

6 . 3 . 27 高屋敷 征 子

愛護会主催の探鳥会参加は今回で4度目です。最初の出会いは去年の11月14日、嵐の中も何のそのといった感じで牧野さんに連れられて参加させて頂きました。

今回この事を井上さんにお聞きしている内に手渡され何げなく封筒の中を見ると原稿用紙が入っていてビックリ。文章らしいものを手がけるのも久しい(学生時代は作文が大の苦手でした)私に探鳥報告書を書かせるなんて……。でもいつかはその役が廻って来るでしょうから早いとこいやな事は終えてしまった方が気楽になるかしら。さて、今回はレイクホテル側からネイチャーセンターへ湖岸を歩いての探鳥会でした。まず歩き始めて驚いたのは岸辺にびっしり群れているオナガガモ、渡り鳥とは

知りませんでした。長い尾もなくなってしまうのですって！オオハクチョウはいつ見ても優雅ですね。沖の方の氷の上には、オオワシ、オジロワシが見られ、ヒシクイらしきものをねらっているオオワシ。水面すれすれに飛ぶ姿に思わず「カッコイイー」と口がすべりました。バードウォッチングを始めて間もないヒョッコの私は鳥の名前を教えてもらってもすぐ忘れてしまいます。でもプロミナーをのぞかせて頂いて、赤茶色の頭のヒドリガモ、パンダみたいなミコアイサの可愛いらしい姿にドキドキしてうれしくなっていました。ベテランの皆様は波間に時々姿を現わす鳥をみてすぐ名前がわかる様ですが、本当に感心してしまいます。私にはただ黒い頭しか見えないのに……。あと何年かしたら私にも少しはわかる様になるのかしら。新米の私ですが見た事のない鳥に出会うと何かしらドキドキして少女の様な気分になるのが不思議ですね。天気もまあまあ楽しい一日でした。新年度から私も愛護会の一員にさせて頂く事になりましたので、よろしくご指導下さいます様お願いします。

〒003 札幌市白石区北郷6条4丁目33

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、オジロワシ、オオワシ、コブハクチョウ、コハクチョウ、オオハクチョウ、ヒシクイ、ヒドリガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、マガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、コウライキジ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、ハシブトガラ、シジュウガラ、スズメ、ハシボソガラス 以上25種

〔参加者〕望月勲、高柳国雄、浅田宏、岸妙子、佐藤ひろみ、柳沢信雄、森田新一郎、吉田司・行子、吉田達之・優子、高屋敷征子、佐藤正秀、牧野洋子、青江正、三船喜克・幸子、志賀2名、野坂英三、関口健一、永島良郎・トキエ、道場優、知花優・優太郎、栗林宏三、井上公雄 以上28名

〔担当幹事〕井上公雄、永島良郎

## 野 幌 森 林 公 園

### 6. 4. 17 木佐木 翠子

3月30日早朝、アズの花、ラッパ水仙、ヒヤシンスなどが咲きほころぶ愛知県小牧市の我家を、ウグイスの声に見送られながら小牧（名古屋）空港へと出発し、札幌市民になるべく主人と2人機上の人となりました。

約1時間半後に私たちが見た風景は雪いっぱいの冬景色。吹雪の札幌に引越してきたのです。友人も、知り合いもないこの寒い雪の札幌で「これからどうしよう…」と、とっても心細くなりました。1日中家のなかにいる私にはおしゃべり相手が必要です。家のまわりを自分の足であちこち歩いてみました。ある日、百年記念塔

をめざして歩くこと30分、そこにはとっても広々とした公園がありました。その2、3日後、新聞でそのすばらしい野幌森林公園で17日に野鳥観察会があるという小さいお知らせ記事を見つけました。

自然のなかを歩くことの好きな私たちは、週末になると木曾へでかけ、山のなかを歩いたり、山菜をとったり森林浴を楽しんだものでした。鳥の名前はメジロ、ヒヨ、シジュウガラ位しかわかりませんが、いろんなことを教えていただける良い機会だからと、オニギリをもって参加しました。前日はとっても暖い春のような陽ざしだったので、私たちは汗をかくといけないからと、薄着にしてコートを着、運動靴といういでたちでかけたのです。ところが、ここは北海道でした。

みんなは長靴にリュック、そしてしっかり防寒していました。「まあ、いいか」と歩きはじめると、見えるのは雪の道。足がズボッと雪のなかにはまってしまったり、雪どけ水で靴がビチャビチャになったりそのうちくつ下までぬれてしまいました。

はじめての探鳥会、寒かったけれども、鳴き声だけで鳥の名前がわかったり、私の目には見えない鳥の姿が、他の人達には見えたり……本当に感心しました。

ゴジュウガラという鳥がいて、しかも鳴き方を場所や雰囲気に応じて変化させるなんて、それを教えていただいだけでも今回参加した値打ちがありました。せっかくこちらに転勤してきたのだからこれを機会に、仲間に入れていただき、北海道の大自然を満喫したいと思っています。日曜日だけでなく普段の日にもこういう観察会があればいいあとと思っているのは、ちょっとぜいたくででしょうか。

〒004 札幌市厚別区厚別東2条3丁目7番5-903

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、ハイタカ、コガモ、オンドリ、マガモ、キジバト、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、キクイタダキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、ウソ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 以上26種

〔参加者〕小野木・小野木弘司、高柳国雄、目黒和子、小高、渡部一夫、知花 優・優太郎、永島良郎・トキエ、久保田喜代美、吉田慶子、小野寺、矢野昭二・玲子、玉田義一・紀美子、稗貫菜穂子・由香利、伊藤裕二、竹内 強、白澤昌彦、木佐木淳二・翠子、青江 正、大西良夫、栗林宏三、納 隆、長谷川幸一、長谷川芳子、山田 甚一、片岡洋美、香川 稔、志田博明・政子、霜村耕介、相沢美江、岡辺正一、山田良造、柳沢信雄、菊田恵理子、川端功治、久田伸一、井上公雄 以上44名

〔探鳥幹事〕井上公雄

以下12ページにつづく

# 平成5年度総会報告

日時：平成6年4月9日(土)午後2時～4時

場所：札幌市民会館 第7号会議室

柳沢会長のあいさつのあと、議長に小堀煌治氏を選出し、審議が行われ原案どおり可決された。

## <議事>

### 1. 会則の一部改正について

白澤代表幹事からの会則第五条・会費の改正理由の説明があり、個人会費2,000円、団体会費5,000円に改正したい旨、提案され承認・可決されました。

会員各位に総会后ハガキで主旨説明申し上げました。

### 2. 平成5年度事業報告

#### (1) 総務

- ア 新年野鳥講演会（6.1.8札幌女性センター）
- イ 野鳥写真展の開催
  - ・たくぎん自動サービスフロア（5.5.7～31）
  - ・北海道電力 エレナード・ギャラリー（5.8.4～10）

ウ 愛護会名入りカレンダーの製作

エ 野鳥だよりの発送（92号～95号）

オ 定例幹事会の開催（5月を除き毎月1回開催）

カ 傷害保険の更新

#### (2) 広報

野鳥だよりの発行（92号～95号）

#### (3) 探鳥

探鳥会の開催（19回、参加者延べ481名）

歩こう会開催（7回、参加者延べ148名）

### 3. 平成5年度会計報告

#### 4. 平成5年度会計監査報告

佐々木武己監事から、適正に執行されている旨の報告があった。

### 5. 平成6年度事業計画

#### (1) 総務

- ア 新年野鳥講演会の開催（平成7年1月中）
- イ 野鳥写真展の開催

## 平成5年度決算書

### (収入の部)

区分	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)	摘要
繰越金	245,694	245,694	0	
個人会費	576,000	639,000	△ 63,000	380人(平成6年度以降の前受分を含む)
団体会費	9,000	13,500	△ 4,500	1団体
寄付金	8,500	10,000	△ 1,500	栗林氏ほか
参加費	47,000	50,000	△ 3,000	新年懇談会、藤の沢探鳥会
売上金	186,082	220,000	△ 33,918	野鳥だより、カレンダー、ネクタイピン外
雑収入	1,661	4,806	△ 3,145	利息
合計	1,073,937	1,183,000	△ 109,063	

### (支出の部)

区分	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)	摘要
印刷費	381,100	550,000	△ 168,900	野鳥だより(4回発行)外
通信費	160,905	170,000	△ 9,095	だより発送費外
会議費	81,254	90,000	△ 8,746	幹事会、総会等
消耗品費	22,339	10,000	12,339	コピー、事務用品
交通費	55,410	70,000	△ 14,590	だより発送、幹事の交通費
報償費	85,860	90,000	△ 4,140	事務所謝礼 外
雑費	59,382	70,000	△ 10,618	障害保険、写真展外
予備費	0	133,000	△ 133,000	
合計	846,250	1,183,000	△ 336,750	

### (収支の部)

(収入) (支出) (残高)  
1,073,937 - 846,250 = 227,687

内訳 会費仮受分 66,000  
繰越金 161,887



- ・たぐぎん自動サービスフロア（5.10～5.27）
- ・北電エレナードギャラリー（6.15～6.21）
- ウ 野鳥だよりの発送（96号～99号）
- エ 定例幹事会の開催（毎月1回）
- オ 愛護会名入りカレンダーの作成
- カ 創立25周年記念事業の準備
- キ 傷害保険の更新

(2) 広 報

野鳥だよりの発行（96号～99号）

(3) 探 鳥

探鳥会の開催（19回）、歩こう会（8回）

6. 平成6年度予算

7. そ の 他

創立25周年記念事業、「野鳥だより100号」記念企画については専門委員会のような組織をつくって検討してゆく。その他、会費、探鳥会開催場所、会員名簿の更新などについて貴重な意見の交換があった。

8. 役員選出

監事大坊幸七氏が退任され、大野信明氏が新監事に就任された。また、栗林宏三、佐藤ひろみ、道場 優の3氏が幹事に選任された。（敬称略）

会 長 柳沢信雄

副 会 長 小堀煌治

監 事 大野信明・佐々木武己

会計幹事 大町欽子・霜村耕一

代表幹事 白澤昌彦

総務幹事 ○渡辺紀久雄、井上公雄（兼務）、栗林宏三、渋谷弘子、清水明子、矢野玲子、三船幸子、村野紀雄

探鳥幹事 ○竹内 強、井上公雄、千葉 広、戸津高保、富川 徹、富田寿一、永島良郎、中野高明、野坂英三、山田良造、渡辺俊夫

広報幹事 ○森田新一郎、赤石誠二、泉 勝統、佐藤ひろみ、白澤昌彦（兼務）、武沢和義、道場 優、道川富美子

（○印は各担当代表者）

## 平成6年度予算書

(収入の部)

項 目	前年度 予算額	予算額	摘 要
繰越金	245,694	161,687	会費仮受分は個人会費に計上
個人会費	639,000	844,000	2,000×422人
団体会費	13,500	10,000	5,000×2団体
寄付金	10,000	10,000	
参加費	50,000	50,000	新年懇談会、藤の沢探鳥会
売上金	220,000	182,000	野鳥だより、絵はがき 外
雑収入	4,806	2,313	利息
合 計	1,183,000	1,260,000	

(支出の部)

項 目	前年度 予算額	予算額	摘 要
印刷費	550,000	500,000	野鳥だより(4回)
通信費	170,000	200,000	だより発送費 外
会議費	90,000	110,000	総会・幹事会 外
消耗品費	10,000	20,000	コピー、事務用品
交通費	70,000	70,000	野鳥だより発送、探鳥会幹事用等
報償費	90,000	90,000	事務所謝礼 外
雑 費	70,000	70,000	障害保険、写真展 外
予備費	133,000	200,000	
合 計	1,183,000	1,260,000	

※ 会員数

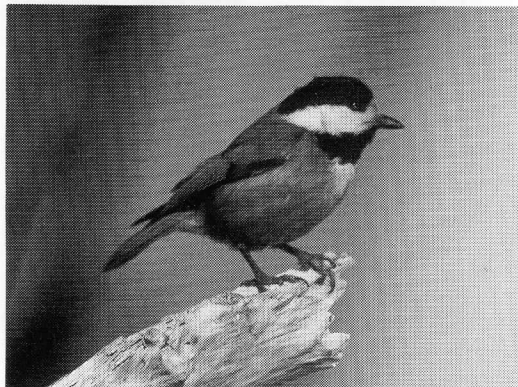
項 目	4.4.1	5.4.1	6.4.1
個人会員数	423名	426名	422名
団体会員数	3団体	3団体	2団体

## ワープロ・パソコンで全国バードウォッチング (パソコン通信のお誘い)

久 田 伸 一

私が野鳥を始めとする自然に関心を持つきっかけになったワープロ・パソコン通信(私の加入しているところは道新オーロラネットと言います)に、「北の自然」という自然に関する話題を話あひ会議室があります。ここでは、探鳥会、自然観察会、天文など自然に関する情報の公開したり、色々教えあったり、集いを企画したりして趣味を同じくする方々との交流を深めております。

ただ、私は自然に興味を持ってからまだ数年という新参者ですし、この北海道の、その中の札幌近郊の、その又一部しか分かりません。この数年間に参加させていただいた北海道野鳥愛護会の探鳥会での鳥合わせは、すべてこの道新オーロラネット上に発表させてもらっています。しかし、まだまだ一年生のような私です。知識も経験も持ち合わせておりません、ただ観察結果をそのまま報告することしかできません。長い年月観察を続けてこられた諸先輩方の中に、こうしたネットの会議室に参加されて、貴重なお話を聞かせてくださる方がいらっしゃればと思い、無理を言ってお誘いの一文」を載せてもらうことを承知していただきました。



ヤマガラ

それでは、まずパソコン通信で全国の情報を収集したり、自分のデータを発信するという事はどのような事なのかをお話しましょう。

手短かに説明しますと、

- ①電話回線(家庭や会社にきているもの)を利用して、
- ②家庭や職場にあるパソコン、あるいは通信機能のあるワープロでもって
- ③ホストコンピュータ(パソコン通信網を主催する個人や団体、会社にあるデータを蓄積しているコンピュータ)に接続する事で

④各種データを取り出したり、逆に家庭からホストコンピュータへ情報を送る  
というようなことを行います。

電話は家庭にきている電話が1回線であれば、パソコン通信で使っている間は通常の電話の受発信はできません。使用している間の料金は電話料金とまったく同じです。ただし、中には有料のものがあり、それらには電話料金とは別に1分いくらというような課金制を設けているところが殆どです。

このパソコン通信の最大の特徴は時間に制約されずいつでも気の向いた時にネットに接続さえすれば情報を取り出したり、送ったりできるという事です。ですから、一度接続して取り出した情報をあとでゆっくり読んだり、自分で観察した野鳥の記録を書きためておいて、それを分けて連載したりする事もできます。

それでは、実際にどのような会議室が有るのかを、全国最大手の有料パソコン通信ネット「ニフティー・サブ」の鳥に関する会議室(略称:FBIRD)を例にとってお話します。この会議室の中にはさらに細分化された会議室があります。

そのひとつに「フィールドノート」つまり観察記録のデータが報告される所があります。ここでは全国津々浦々で観察された野鳥の記録が、観察場所、年月日、観察種などに備考を添えて、毎日のように報告されています。

また、交流を深める目的で設けられている談話室「アイビス」では、渡り鳥の移動状況が話されたり、初鳴き情報が届けられたりしています。昨年はレンジャクがどこそこに飛来したと言う話題で随分盛り上がりました。全国的にも多かったようです。データライブラリーには野鳥や花などの画像データがあります。この情報を取り出す事で、パソコンの画面上で鳥や花の写真(画像)を見る事ができます。

以上のほかに、鳥だけでなく花や動物に関する話題を話合うところも用意されております。従って、FBIRDだけでも自然に関する様々な話ができるという事です。会員数数十万人という大手ネットですから、蓄積データは膨大な量になります。ここから、自分にとって必要なものを取り出す事で、きっと、貴方の鳥見ライフはより以上に充実したものになるのではないかと思います。

最後に道新オーロラネット上での通信例をひとつ紹介させていただきます。これは私がバードウォッチングを始めてまもなくの頃、会議室に書いた一文に対するやりとりです。

@発言0172 (00626/久田伸一/ロカビリババ)

91/06/26 19:56\*0000回\*レスポンス00個

1233字:TEXT:アカゲラの巣。……

私がバード・ウォッチングを始めたことを知って、わざわざアカゲラの巣を教えてくれた人がいました。今日、



アカゲラ

仕事のついでに回ってみました。山裾の住宅街と聞いて半信半疑で行ってみると、車を寄せてゆくと確かにヒナの声。平地にある数本の木のひとつに、ある、ある、そと近寄ってみると中に数羽のヒナ。場所を確かめたので、車を移動して観察してますと、ほどなくして、餌を口にくわえた親鳥がやって来ました。つがいですね。二羽が交互に巣に近づいていました。巣立ちというのは、ある日巣から飛び出て、もう戻らなくなるのでしょうか？それにしても、あんな学校近くで子供等の往来も多いというのに、子育ての環境じゃないなあ。道を歩いていてもヒナの声が、やかましく聞こえるんですよ。

そこの近くで、タタタタと聞こえる、機関銃の乾いたような声でなく鳥がいました。あまりにはっきりそのように聞こえるものですから、鳥でないかなと思ったのですが、いましたね、肉眼ではよく確認できませんでしたが、ハクセキレイより一回り大きいような気がしましたが、長く少し巾のある尾(特徴)をゆっくりと上下左右に振っていたのが印象的。体はグレーっぽくて特に色は識別できませんでした。くちばしは長い。??

はて、なんだったのだろう。

……End of Say (No0172) ……

そして、その新レスポンスは

@@レスポンス01 (01156/黒田弘章/ごんべえ)

91/06/26 22:00\*0009回

ロカビリババさん、こんにちは

アカゲラの巣を道路脇で見ることってけっこう有りませうね。何年か前に名寄のメインストリートにある白樺の木に巣をつくったことがありましたっけ。巣だったら穴

の大きさ、深さを測って見たらどうでしょうね。

尾を振っていたグレーの鳥は、ハクセキレイの幼鳥かと思ったのですが、尾を上下左右に振って(モズ?)、グレーでくちばしが長い(ヒヨドリ?)、タタタタと鳴く鳥(キチキチキチと鳴くモズ?)等といろいろ考えたらわからなくなってしまった。

モズはくちばしが短かったような……

……End of Response (No0172@01) ……

@@レスポンス03 (00196/島崎康広 /SHIMA)

91/06/27 20:22\*0000回

ロカビリババさん、大通り公園の街路樹にもいろんな野鳥が巣作りをしているようですが、もう人の目(まさに人間の目?)を気にしてられない環境になっているのですね。アカゲラではないのですが、去年、真駒内の街路樹にクマガラが巣作りをしていたそうで、その後だけを見せてもらいましたが、結構交通量が多い、幹線道路でしたよ。あのアカゲラの巣穴、2度と使わないのかどうか分かりませんが、空き家(巣穴)をスズメやコムクドリが新居(巣)として利用しているようです。

……End of Response (No0172@03) ……

@@レスポンス04 (01156/黒田弘章/ごんべえ)

91/06/28 21:31\*0011回

追伸 Res

ロカビリババさん

モズの頭が茶色ではなかったということですが、個体差があって灰色のこともありますよ。鳴き声はキョンキョン(あるいはギョングョン、ギョングョンなどと聞こえるかもしれませんが)というのがさえずり(?)です。タタタというのとは縄張り主張や威嚇するときの声です。

モズは尾を上下左右に振ったり、くるくる回したりするので草原の指揮者のようですね。

……End of Response (No0172@04) ……

以上、簡単にパソコン通信をかいつまんで説明しましたが、これから挑戦してみたいと思う方がいらっしゃいましたら、私でできることなら、力になりますので、どうかご一報ください。また、実際に目で確かめたい方がいらっしゃいましたら、札幌近郊まででしたらノートパソコンを持参の上でどのようなものかをお見せ致します。遠慮なく御連絡下さい。

☎011-783-5435(夜8時以降希望)

〒002 札幌市北区北39条東6丁目2-21

## 探鳥会報告 (つづき)

### 宮島沼にオオハクガン

6. 4. 24 望月 勲

17日、千歳川の探鳥会で宮島沼での探鳥会に誘われて、初めて参加しました。千歳川ではヤマセミを撮影出来てラッキーでした。ウトナイ沼では、1万5千羽位でしたが、ハクガンがいたのに観察出来ず残念でした。

24日、朝から小雨と風が強く、天気予報では昼から晴れ、宮島沼に着いても雨。観察センターでビデオ、写真、図鑑でガンについて勉強。午後晴れて沼に、マガン、ヒシクイ、オオハクチョウ、オオハクガン、シジュウガラガンが田んぼから帰って来た。

夕日の雁行は美しく、宮島沼の周囲の自然環境を守っていききたいと思いました。

ガイドしてくれた会員のみなさん、ありがとうございます。

千歳市花園5丁目8番13号

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、オオハクチョウ、コハクチョウ、マガン、ハクガン、ヒドリガモ、コガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ホオジロガモ、カモメ、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、ツグミ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ニューナイスズメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 以上24種

〔参加者〕田中賢治、田中まり子、田中よしのり、和久雅男、浜田強、早川いくこ、加藤花子、若林信男、山本肇、岡田幹夫、佐藤ひろみ、目黒和子、南出耕作、南出百子、杉田範子、高屋敷征子、後藤義民、望月勲、柳沢信雄、小堀煌治、森田新一郎、服部光博、越後弘、山田良造、三船喜克・幸子、矢野昭二・玲子、佐藤幸典、伊藤裕二、井上公雄、野坂英三、星子廉彰、田辺至、広川淳子、牧野洋子、高柳国雄(名札提出なし6名) 以上43名

〔探鳥幹事〕山田良造、森田新一郎

「宮島沼のオオハクガン」につきましては資料をととのえて精査・研究されています(広報)

### 野幌森林公園探鳥会の感想文

6. 5. 8 森 純子

野幌森林公園の探鳥会に初めて参加させて頂きました。私たち家族は、1ヶ月前に札幌に引っ越してきたばかりなので、どんな鳥たちに出会えるか、ワクワクドキドキ、期待いっぱい集合場所に行きました。そして、さあ、出発。公園内に入ったとたん「まあ、なんてステキな所！」と目を見はりました。森の歴史を感じさせるような、幹の太い木々が並び、足元にはニリンソウやエンゴサクな

ど、かれんな春の花が咲き、森のよい香りがします。そして鳥たちもでるわでるわ、キビタキやオオルリなど、おめあての夏鳥たちが次々に姿を見せてくれ、大満足でした。

私たちは、元々大阪出身で、札幌に来る前は高知に住んでいたの、北の鳥たちはほとんど無知。だから、冬にやって来て地鳴きしかなかった地味な鳥だと思っていたアオジが、美しい歌声を聞かせてくれたり、カケスの頭が本州のと違ってくり色だったり、そんなことすべてが新しい発見で、嬉しくなっていました。

そしてもう一つ嬉しかったのは、リーダーの方々、親切に北の鳥のことを色々教えて下さったこと。初対面の方々なのに、大阪や高知のバードウォッチャーたちと話しているような気分になり、やっぱり日本全国どこへ行ってもバードウォッチャーは似ているのかな、などと思いつつ、引っ越して来たばかりでホームシック気味だった私は、少しホッとした気持ちになりました。どうもありがとうございました。

札幌に住んでいる間は、あちこちの探鳥会に出かけて、北の鳥たちや自然にふれ合いたいと思っていますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

〒062 札幌市豊平区羊ヶ丘7森林総合宿舍2-3-6  
〔記録された鳥〕カイツブリ、トビ、ハイタカ、オシドリ、マガモ、キンクロハジロ、オオジシギ、キジバト、コゲラ、アカゲラ、ヒヨドリ、モズ、ミソサザイ、コリ、クロツグミ、ヤブサメ、ウグイス、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、メジロ、ホオジロ、アオジ、クロジ、カワラヒワ、ウソ、イカル、ニューナイスズメ、カケス、ハシブトガラス、ドバト 以上38種

〔参加者〕荒川淳三・弘子、伊藤慎二郎・聖子・博見、犬飼弘、石橋和子、今村三枝子、伊東裕二、今田妹子、小野木弘司・幸子、樋田能樹・美恵子、岡田幹夫、大森由紀子、川端功治、木佐木淳二・翠子、木村薫、黒瀬義孝、今野弘、斉藤貞夫、佐々木泰夫、白澤昌彦、杉田範男、菅沼良三・郁子、田辺至、竹内強、高橋ひとみ、竹中昭雄・直子・悦子、武沢和義、高橋利道、高柳国雄、知花優、中村美知子、野坂英三、浜中恒寧、平尾恒、船越昭則、細川英雄・礼子、三船喜克、水内信子、守田昭平、森敏子、森田新一郎、森純子、山田良造、柳沢信雄、吉田司・行子・慶子 以上56名

〔担当幹事〕森田新一郎、野坂英三

## 千歳川周辺一泊探鳥会に参加して

6.5.14～15 島崎康弘

5月14日～15日にかけて行われた千歳川周辺での一泊探鳥会に、初めて参加させていただきました。

前夜の14日は支笏湖畔のユースホテルに泊り、翌朝の期待の野鳥を夢に見ながら早目に就寝しました。起床予定時間は3時半、陽が昇るのが早くなってきたとはいえ、まだ真っ暗ですが、皆さんそれぞれに野鳥への期待感からか、3時まえから起き出す方もいらっしやり、寝坊する方もなく、霧の中を千歳川沿いの集合場所に向けて出発しました。

コースは千歳川沿いに鳥棚舞橋から王子第4ダムまでの往復です。鳥棚舞橋のたもと空地で挨拶をし、いざスタートのそのとき、「ヤマセミ！」の声に幸先の良さに驚いたのですが、残念ながら橋にある置物でした。

最初は様々な種類の野鳥の声を聞きながら歩きましたが、なかなか姿を見せてはくれませんが、

さけ・ますふ化場に近づくにつれて、ようやくたくさんの野鳥が顔を見せてくれました。

特に千歳市に住む私にとってもツツドリは今シーズン初めてさえずりを聞くことが出来ました。また、今年はオオルリが多いように思えるのですが、ここでも「もういいよ」って、ふと思ってしまうほどたくさんのオオルリが目を引きました。

折り返し地点の王子第4ダムでそろって朝食をいただき、もと来た道を引き返しましたが、帰りは寒さのせいもあるのか、急いで戻る方が多く、バラバラになってしまいました。モズがキビタキを捕まえたまま移動する場面を見ることが出来た方もいらしたそうです。

途中、霧雨も降る寒い朝でしたし、夢の中に出てきたアカショウビンは見られませんでしたし、私は都合で鳥合わせまでいられなかったのは残念でしたが、多くの野鳥を観察できたのはプラスでした。

また、ベテランの方々のさえずりだけでなく、地鳴きを含めた声だけからの識別力の高さには見習わなければ、と気持ちを新たにさせられました。

〒066 千歳市新富1丁目1-38 北栄宿舎6号棟

<記録された鳥>アオサギ、トビ、オシドリ、マガモ、キンクロハジロ、オオジシギ、キジバト、アオバト、ツツドリ、カワセミ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ミソサザイ、コマドリ、コルリ、クロツムギ、アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キクイタダキ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバ

シリ、メジロ、ホオジロ、アオジ、クロジ、カワラヒワ、ベニマシコ、イカル、ニューナイスズメ、スズメ、カケス、ハシブトガラス、ハシボソガラス、シメ 以上53種  
<参加者>高橋利道、西川喜久世、三船喜克・幸子、師田博明・政子、岸本聰一郎・弘子、野口正男・記代、武沢和義・佐和子、永島良郎、小川秀子、沢内克彦、笠原康民、巻智恵子、金子由美、上口淳子、今田、大石晋一、島崎康弘、竹内強、高橋タミ、石橋和子、浜中、木村孝二、佐藤ひろみ、山本次郎、服部光博、渋谷節子、島田芳郎、三浦美恵子、渡辺栄子、野坂英三、江田三男、佐藤明美、久田伸一、岩淵、犬飼弘、稲葉千秋、安味瑠美子、西田都、田中志司子、白澤昌彦、船越昭則、栗林宏三 計47名

<担当幹事>竹内強、栗林宏三、三船幸子

## めずらしい野鳥たちの飛来記録

<ヤマヒバリ> 支笏湖休暇村 平成6年2月24日～26日 柳沢信雄会長。道内では1899年に札幌で捕獲されて以来記録が途絶えていた。道新6.3.24

<ハクガン、サカツラガン> 声間大沼 平成6年4月29日～30日 小堀煌治、山田良造さん。サカツラガン(酒面雁)黒いくちばしの大型のガン。ハクガンは幼鳥。「サカツラの特徴がよくでている」小堀さん。

<コクマルガラス> 札幌市南区 平成6年5月 小堀煌治さん 道新6.5.14 ツートンカラーでもカラスの仲間です。以上の四種はいずれも1羽です。

<コサギ> 2羽 鶴川河口 平成6年5月22日 つがいか。強風のため1羽の冠羽が吹き流されていた。

<クロハラアジサシ> 2羽 鶴川河口中洲 同22日当日の幹事 山田良造、三船幸子さん、参加者20名。

<ことしも営巣したカササギ> 室蘭 平成6年5月4日道新・朝刊「国内では九州の佐賀県にしか生息しない珍鳥カササギ。ことしも新日鉄室蘭製鉄所近くの雑木林で営巣した」(記事より)

<ソリハシセイタカシギ> 苫小牧 平成6年5月下旬～6月2日 佐藤幸典さんが磯に飛来しているのを発見・確認した。この間、山田良造さんが5月29日、6月1日に撮影され、羽田先生、榊川ご夫妻方もソリハシセイタカシギを10数メートルの至近距離で観察されたとのこと。北海道に飛来するのは稀有のよう。

平成4年10月23日、九州で5羽が観察されている。苫小牧のソリハシは疲労しているようにみえたといわれるが、無事仲間たちのいるところへ帰れただろうか？

みなさんの“野鳥短信”をおまちしています。(広報)



◆会費の値上げについて

去る4月9日の総会において、平成6年度から、会費を年額1,500円から2,000円(団体は4,500円から5,000円)へ値上げすることに決定しました。

これは、郵便料金の値上げや創立25周年記念事業を考慮し、財政基盤の強化を図るためのものです。

既に6年度会費を納入済みの方は、恐縮ですが、差額分を追加納入して下さるようお願いいたします。

各会員の納入状況は、会報に同封します。

また、本会の郵便振替口座が、5月から、02710-5-18287となりますので、併せてお知らせします。

◆平成6年度 野鳥写真展出展作品

たくぎん自動サービスフロア 5.10~27.

北電・エレナード・ギャラリー 6.15~21.

出展者・作品名(イロハ順、敬称略)

石橋 孝 継・ノゴマ、センダイムシクイ(船倉島)

石橋 美津子・タンチョウ 2点

荻原 俊 男・ハイタカ、ゴジュウカラ

富田 寿 一・シロハヤブサ、キマユツメナガセキレイ

鹿島 愷 策・シメ、スズメ

村野 紀 雄・厳冬のアオサギ

柳 沢 信 雄・エナガ、ヒヨドリ

山田 良 造・アカショウビン、コクガン

山本 一・コゲラ

小堀 煌 治・ゴイサギ、オグロシギ

遠藤 茂・メグロ(母島)、ライチョウ(立山)

遠藤 幸 子・オンドリ、赤色カッコウ(石川県)

佐藤 勇・ヒレンジャク、フクロウ

佐藤 康 雄・オオタカの幼鳥

三船 喜 克・コメボソムシクイ、ミソサザイ

志田 博 明・ギンザンマシコ

渋谷 信 六・コオリガモ

新城 久・アオアシシギ、ハシブトガラ

香川 稔・オオルリ

以上 18名、32点



〔鶴川〕

平成6年8月28日(日)

平成6年9月11日(日)

シギ・チドリなど今年も元気な姿を見せてください。  
長靴をご用意ください。

集合=9時30分 JR日高線鶴川駅まえ

交通=道南バス(浦河ゆき)札幌駅まえバスターミナル  
8時発、鶴川駅通り下車

〔鏡沼・宮島沼〕平成6年10月16日(日)

4月24日の探鳥会には24,000羽のマガンのなかにハクガンが1羽まじっていた。今年も……。

鏡沼は木もれ日のなかのカモやカイツブリが美しい。  
くかいつぶり顔見合せて又はひる 芭蕉>

集合=10時 大富会館まえ

交通=JR石狩月形駅まえ発 8時45分(中央バス)

中央バス岩見沢バスターミナル発 9時00分

いづれも大富農協まえ下車、徒歩15分

〔野幌森林公園〕平成6年10月23日(日)

カツラの木の香りをすいながら、紅葉のなかの探鳥。

3月のクマガラ一斉調査で出会ったクマガラ君にまた会えたら……。

集合=9時 大沢口駐車場入口

交通=夕鉄バス(文京台線)、新さっぽろ駅バスターミナル  
8時23分発。大沢公園入口下車、徒歩5分。

〔野幌森林公園を歩きましょう〕

平成6年10月2日(日)集合=9時上記ご参照。

○いずれの探鳥会もよほどの悪天候でない限り行きます。

○昼食、雨具、観察用具、筆記用具をご持参ください。

○探鳥会のお問合せは、011-771-7866 矢野宅まで。

編集後記…野鳥だよりに5年の永きにたづさわって頂いた泉 勝統さんが、健康の具合から本年度休まれることになりました。今日までのご苦勞対しまして心から感謝申し上げます。95才の隅田重義さんの貴重な記録文を寄せてくださったこと、ありがとうございます。

今号は、みなさんのご協力により充実したものになりました。豊作の秋には人も機械もフル稼働をしますし、収納する倉庫もあちこち分散して入れなければなりません。このため「面付け」では、若干従来のやり方と異った形をとらざるを得ませんでした。会員各位が本号を受けとられて違和感など抱かれましたら、率直にご叱責をたまわりたく存じます。(森田)

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 2,000円(会計年度4月より) 郵便振替 02710-5-18287

〒060 札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル5・6階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251-5465